

青森県花き振興方策

令和7年4月

青森県農林水産部

はじめに

本県の花きは、水稲や野菜等との複合経営において、労働力の分散を図りつつ、施設等を有効活用しながら取り組まれており、生産者の所得向上に寄与しています。

また、販売では、お盆や彼岸などを始めとした地元消費者の高い需要に支えられているほか、県内外の市場からは、夏秋期における高品質生産が可能な産地として期待されています。

一方で、産地では、担い手の減少や高齢化の進行に伴い生産量が減少しているほか、近年は夏場の高温により品質等に影響が生じているところ です。

こうした状況を踏まえて、本方策では、「生産対策」、「担い手の確保・育成対策」、「流通対策」、「消費宣伝対策」を柱とし、それぞれの課題について、重点的に取り組むべき内容を明確に位置付けました。

コロナ禍を経て生活様式が変わり、業務用需要が低迷するなど変化が見られていますが、夏秋期における品質の良さを強みに、地元で親しまれる産地づくりを進めながら、本県花きの振興を図っていきたいと考えています。

関係者の皆様におかれましては、生産・流通・販売の各分野において、連携を強化しながら本方策の取組を効果的に進めていただきますよう、御理解と御協力をお願いいたします。

令和7年4月

青森県農林水産部長 成田 澄人

目次

第1章 本県花きの現状と課題

1 本県農業における位置付け	1
2 生産状況	2
3 販売状況	10
4 本県花きの需要	15

第2章 青森県花き振興方策の位置付け

1 青森県基本計画における位置付け	17
2 法律上における位置付け	17
3 計画の期間	17

第3章 本県花きの振興に向けた対策

1 生産対策	18
2 担い手の確保・育成対策	20
3 流通対策	21
4 消費宣伝対策	22

第4章 本県花きの生産目標

第5章 付属資料（青森県花き振興方策策定経過）

第1章 本県花きの現状と課題

1 本県農業における位置付け

本県の農業産出額は、平成27年から8年連続で3,000億円を超えている中、花き産出額は20億円前後で推移しており、農業産出額に占める割合は減少しています。

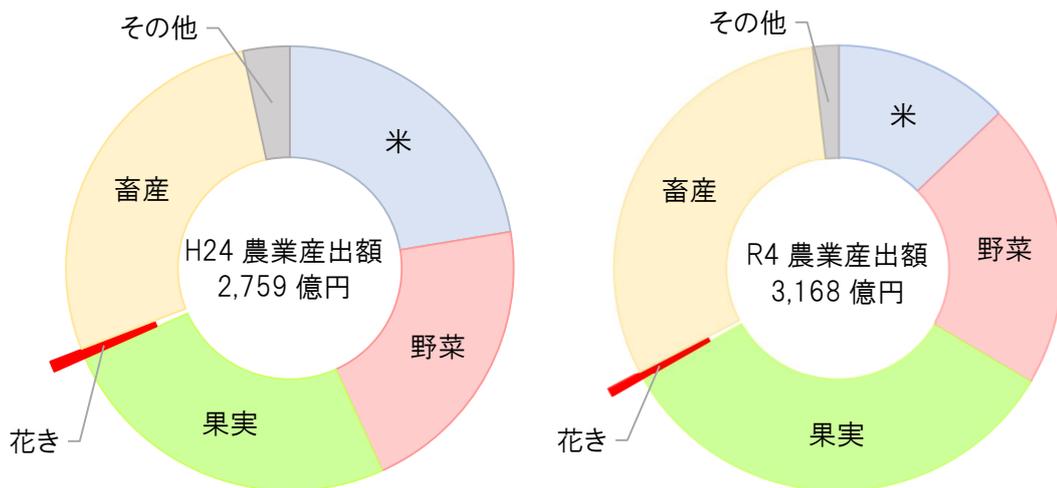
農林業センサスのデータによると、花き・花木を主とした経営体数は少なく、多くが複合経営における補助品目の一つとして導入しているものと推測されます。

【農業産出額】

(単位：億円)

区分	計	耕種						畜産
		小計	米	野菜	果実	花き(割合)	その他	
H24年	2,759	1,998	617	576	692	21(1.1%)	93	760
H29年	3,103	2,188	513	780	790	19(0.9%)	86	915
R4年	3,168	2,190	405	657	1,051	19(0.6%)	57	979

[農林水産統計]



【農業経営体数】

(単位：経営体)

区分	販売目的の作付経営体数		単一経営	準単一複合経営
	うち花き・花木		花き・花木	花き・花木が主位
R2年	27,586	394	94	44

[2020年農林業センサス]

2 生産状況

(1) 作付面積

作付面積は減少傾向にあり、主力の切り花類では、平成 24 年比で 52%と大きく減少しています。

品目別では、キク類、トルコギキョウ、サクラ（枝物）の順となっており、このうちトルコギキョウの減少割合が最も小さく、平成 29 年以降は横ばいで推移しています。

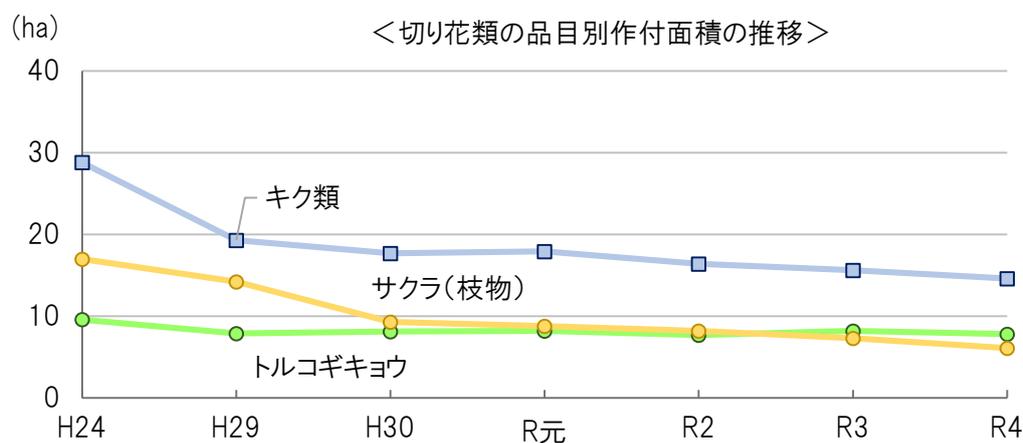
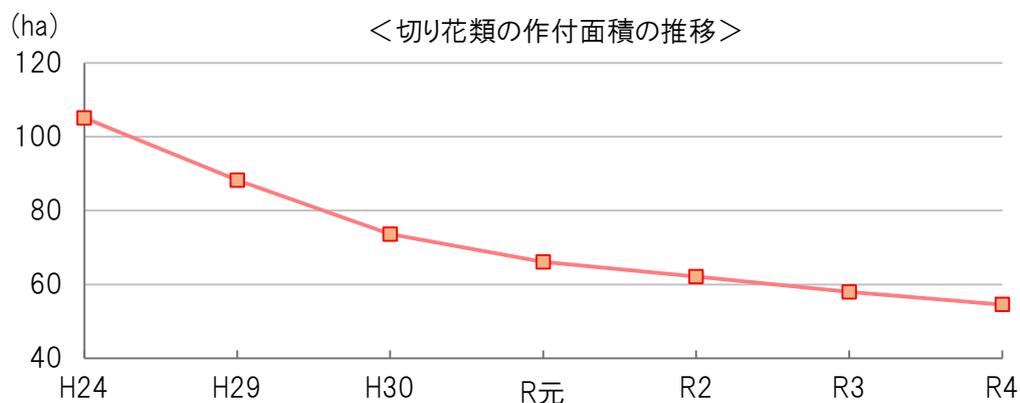
また、露地栽培が減少しているため、作付面積全体に対する施設栽培の割合が高くなっています。

【類別作付面積】

(単位：ha)

区分	H24	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H24
切り花類	105.1	88.2	73.6	66.1	62.1	58.0	54.6	52%
鉢物類	12.6	10.2	9.3	8.9	7.9	6.8	7.8	62%
苗物類	5.9	5.1	3.8	4.0	3.1	2.8	3.6	61%
花木類	9.2	4.2	2.0	1.6	1.6	1.6	1.4	15%
芝類	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	100%
球根類	1.5	0.5	8.7	8.1	8.4	8.5	7.4	503%
合計	138.4	110.5	101.4	92.7	87.0	81.8	78.8	57%

[県花き産地生産等調査]



【切り花類 品目別作付面積】

(単位 : ha)

区 分	H24	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R4/H24
キク類	28.8	19.3	17.7	17.9	16.4	15.6	14.6	51%
輪ギク	18.1	12.4	11.7	11.7	10.3	8.7	7.8	43%
デイスパッドマム	※	※	※	※	※	1.5	1.7	—
トルコギキョウ	9.6	7.9	8.1	8.2	7.7	8.2	7.8	81%
アルストロメリア	2.4	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	1.9	80%
カンパニュラ	1.1	1.4	1.3	1.2	1.0	1.0	1.1	99%
ヒマワリ	3.5	3.8	3.6	3.7	3.7	3.2	2.8	81%
デルフィニウム	0.7	0.9	0.8	0.8	1.0	0.5	0.4	62%
サクラ(枝物)	17.0	14.2	9.3	8.8	8.2	7.3	6.1	36%
バラ	3.7	2.5	2.0	1.9	1.9	1.2	0.8	23%
ユリ類	2.2	1.1	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	23%
宿根カスミソウ	1.6	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.7	41%

[県花き産地生産等調査、※調査データなし]

【切り花類 施設・露地別の作付面積と割合】

(単位 : a、%)

区 分	H24	H29	H30	R 元	R2	R3	R4
施設	面積	5,326	4,442	4,017	3,547	3,331	3,171
	割合	51	50	54	54	54	55
露地	面積	5,188	4,382	3,397	3,061	2,875	2,632
	割合	49	50	46	46	46	45

[県花き産地生産等調査]

(2) 出荷数量

作付面積の減少に伴い、出荷数量は大きく減少しており、単位当たりの出荷数量も減少傾向となっています。

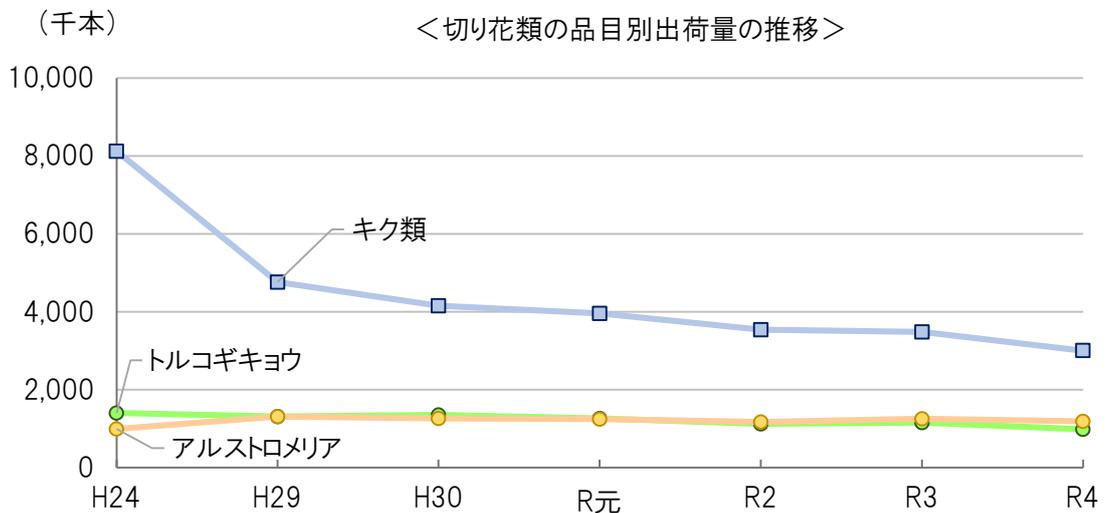
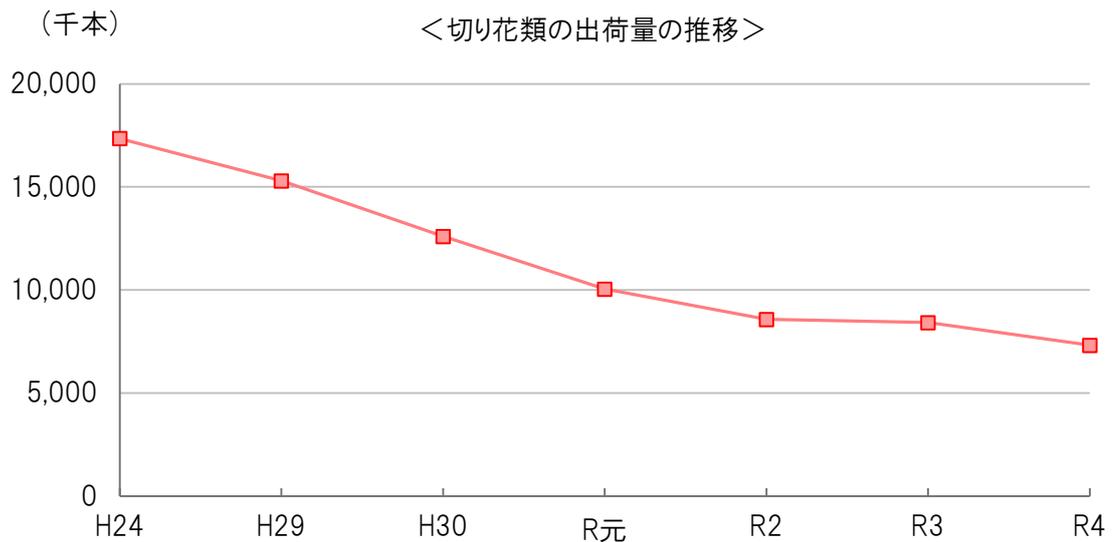
品目別では、キク類、アルストロメリア、トルコギキョウの順となっており、このうち単位当たり出荷数量においてキク類の減少が最も大きくなっています。

【類別出荷数量】

(単位：千本、千鉢)

区分	H24	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H24
切り花類	17,348	15,301	12,605	10,049	8,571	8,416	7,324	42%
鉢物類	5,603	4,954	5,192	3,820	3,402	2,728	2,790	50%
苗物類	3,572	2,208	1,694	2,331	1,606	1,563	1,825	51%
花木類	51.6	1.6	1.8	0.5	0.7	0.6	0.6	1%
芝類	300	400	300	197	200	170	200	67%
合計	26,874	23,520	19,793	16,397	13,779	12,878	12,140	45%

[県花き産地生産等調査]



【切り花類 品目別出荷数量】

(単位：千本)

区 分	H24	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R4/H24
キク類	8,124	4,765	4,154	3,962	3,544	3,483	3,005	37%
輪ギク	5,095	2,932	2,759	2,574	2,308	2,005	1,470	29%
デイスバッドマム	※	※	※	※	※	433	520	—
トルコギキョウ	1,403	1,308	1,353	1,263	1,121	1,152	987	70%
アルストロメリア	992	1,313	1,263	1,245	1,174	1,250	1,190	120%
カンパニュラ	327	600	474	456	347	315	365	112%
ヒマワリ	681	585	310	329	373	418	331	49%
デルフィニウム	39	59	57	46	41	26	21	54%
サクラ(枝物)	246	67	48	40	54	36	35	14%
バラ	1,603	1,217	727	538	490	450	310	19%
ユリ類	181	124	107	44	29	28	22	12%
宿根カスミソウ	137	106	80	89	95	91	65	47%

[県花き産地生産等調査、※調査データなし]

【切り花類 品目別単位当たり出荷数量】

(単位：千本/10a)

区 分	H24	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R4/H24
キク類	28.2	24.7	23.4	22.2	21.6	22.4	20.6	73%
輪ギク	28.1	23.7	23.6	22.0	22.5	23.1	18.7	67%
デイスバッドマム	※	※	※	※	※	29.1	30.9	—
トルコギキョウ	14.7	23.9	16.8	15.5	14.5	14.1	12.7	87%
アルストロメリア	41.3	71.0	68.6	68.8	64.5	65.1	62.1	150%
カンパニュラ	30.6	41.7	37.0	39.0	35.3	32.4	34.4	113%
ヒマワリ	19.3	15.5	8.6	8.9	10.0	13.2	11.7	60%
デルフィニウム	6.0	7.0	7.1	5.5	4.1	4.8	5.2	87%
サクラ(枝物)	1.4	0.5	0.5	0.5	0.7	0.5	0.6	40%
バラ	43.7	49.5	35.6	28.5	25.9	36.4	36.7	84%
ユリ類	8.1	11.2	10.6	8.2	5.5	5.4	4.2	52%
宿根カスミソウ	8.7	10.6	7.9	8.8	12.7	10.9	9.9	114%

[県花き産地生産等調査、※調査データなし]

(3) 農家戸数

農家戸数は減少傾向にあり、花き主体の新規就農者はほとんどいない状況です。品目別では、キク類、トルコギキョウ、ヒマワリの順となっており、いずれの品目でも農家戸数は減少傾向となっています。

【類別農家戸数】

(単位：戸)

区分	H24	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H24
切り花類	861	670	646	567	522	515	539	63%
鉢物類	64	62	48	51	46	38	57	89%
苗物類	88	89	83	66	67	73	79	90%
花木類	12	7	7	7	7	7	7	58%
芝類	1	1	1	1	1	1	1	100%
球根類	4	5	3	4	16	7	12	300%
合計	996	830	778	696	659	639	689	69%

[県花き産地生産等調査]

【新規就農者の推移】

(単位：経営体)

区分	H24	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H24
新規就農者	267	277	256	292	303	265	257	93%
うち花き主体	3	0	0	0	1	0	1	-

[県構造政策課調べ]

【切り花類 品目別農家戸数】

(単位：戸)

区分	H24	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H24
キク類	271	168	160	164	152	141	174	64%
輪ギク	131	91	88	82	76	64	68	52%
ディスパッドマム	※	※	※	※	※	11	13	-
トルコギキョウ	234	164	160	165	169	150	143	61%
アルストロメリア	21	18	20	19	19	19	19	90%
カンパニュラ	20	25	25	20	21	18	21	105%
ヒマワリ	75	39	36	35	35	39	39	52%
デルフィニウム	21	28	27	25	27	26	25	119%
サクラ(枝物)	111	35	30	26	25	22	19	17%
バラ	22	12	11	10	11	10	5	23%
ユリ類	48	24	21	19	18	17	16	33%
宿根カスミンソウ	29	22	24	22	17	15	14	48%

[県花き産地生産等調査、※調査データなし]

(4) 一戸当たりの作付面積

一戸当たりの作付面積は減少傾向にあり、切り花類では平成 24 年比で 83%と減少しています。

品目別ではキク類などが減少している一方、トルコギキョウやヒマワリなどが増加傾向となっています。

【類別一戸当たり作付面積】

(単位：a/戸)

区 分	H24	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H24
切り花類	12.2	13.2	11.4	11.7	11.9	11.3	10.1	83%
鉢物類	19.7	16.5	19.4	17.4	17.2	18.0	13.6	69%
苗物類	6.7	5.8	4.5	6.1	4.6	3.9	4.5	68%
花木類	77.0	60.4	28.9	23.1	23.2	23.1	19.7	26%
芝類	400.0	400.0	400.0	406.0	400.0	400.0	400.0	100%
球根類	36.8	10.0	290.0	202.5	52.2	121.4	61.7	168%
合計	13.9	13.3	13.0	13.3	13.2	12.8	11.4	82%

[県花き産地生産等調査]

【切り花類 一戸当たり作付面積】

(単位：a/戸)

区 分	H24	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H24
キク類	10.6	11.5	11.1	10.9	10.8	11.1	8.4	79%
輪ギク	13.8	13.6	13.3	14.2	13.5	13.5	11.5	83%
デイスバッドマム	※	※	※	※	※	13.5	13.0	—
トルコギキョウ	4.1	4.8	5.0	4.9	4.6	5.4	5.4	133%
アルストロメリア	11.4	10.3	9.2	9.5	9.6	10.1	10.1	88%
カンパニュラ	5.4	5.8	5.1	5.9	4.7	5.4	5.0	94%
ヒマワリ	4.7	9.7	10.1	10.5	10.6	8.1	7.3	155%
デルフィニウム	3.1	3.0	3.0	3.3	3.7	2.1	1.6	52%
サクラ(枝物)	15.3	40.6	31.1	33.8	32.6	33.2	32.1	209%
バラ	16.7	20.5	18.5	18.9	17.2	12.3	16.9	101%
ユリ類	4.6	4.6	4.8	2.8	3.0	3.1	3.2	70%
宿根カスミソウ	5.4	4.5	4.2	4.6	4.4	5.6	4.7	86%

[県花き産地生産等調査、※調査データなし]

(5) 生産対策の推進

ア 施設・機械の導入支援（野菜等産地力強化支援事業、県単・ハード）

産地の所得向上と産地力の強化に向けて、パイプハウスや省力機械等の導入を支援していますが、令和元年度から5年度までにおいて花きに係る支援実績はありません。

事業実施主体	予算額	補助率
市町村、農協、営農集団、農業法人、認定農業者、新規就農者等	千円 21,000	1/4 以内

※内容は令和3年度からの事業、予算額は令和6年度

イ 生産技術の向上支援

(ア) 生産情報の発行

生育状況や病害虫の発生状況、作物の管理方法等について情報発信しました。

【令和5年度実績】 定時発行7回（このほか、気象状況に応じて随時）

(イ) 生産技術指導

各地域県民局地域農林水産部農業普及振興室が主体となって、現地ほ場を巡回指導しているほか、JA全農あおもり等と連携しながら栽培技術現地研修会やセミナー、共進会を開催しています。

【令和5年度実績】 花き振興セミナー（12月・青森市） 参加47名
栽培技術現地研修会（9月・つがる市） 参加23名
花の共進会（7月・青森市） 出品140点

(ウ) 夏季高温対策

令和元年に夏秋期生産強化チームを設置し、夏場の高温対策を指導しているほか、令和3年度からは、トルコギキョウの品質向上に向けて新技術の実証に取り組んでいます。

【夏秋期生産強化チームの構成機関】

JA全農あおもり・各JA・県産業技術センター農林総合研究所・農林水産政策課・各地域県民局地域農林水産部・農産園芸課

【令和5年度実績】 赤色LED電照処理による開花抑制及び切り花品質向上効果を検証し、マニュアルを作成

(6) 課題等

- ・作付面積、農家戸数ともに減少しているため、出荷数量が減少しており、本県花きの振興を図るためには、産地の生産力強化が急務となっています。
- ・単位当たりの出荷数量が減少傾向にあるため、継続的な技術支援に加えて、近年の夏季高温に対応した技術開発・普及が重要です。

○農協の意見等

- ・高温による奇形花や短茎開花、病虫害被害の拡大のほか、収穫期のずれなどにより、出荷量や品質が低下している。
- ・生産者間で品質にバラツキがある。
- ・新たに花き栽培に取り組む意向がある生産者が、栽培方法等について学ぶ体制や機会が少ない。

○関東市場の意見等

- ・青森県産花きは、夏秋期の高品質な産地として認識している。
- ・高温により全国的に品質が低下する中、夏季冷涼な気候を生かした高品質・安定生産を期待している。
- ・高温に対応した栽培技術の導入や栽培管理を行ってほしい。
- ・品質について生産者間の平準化を図ってほしい。



赤色LED電照実証ほ



トルコギキョウにおける赤色LED電照の現地実証結果

青森県の主要な花き品目である「トルコギキョウ」の生産において、高温期の切り花品質の低下が見られており、高温時の品質向上など市場ニーズへの対応が課題となっています。そのため、青森県花のくにつくり推進協議会では、高温対策に関する技術である赤色LED電照に着目して、県内3か所に実証を設置し、切り花品質の向上及び開花抑制に係る技術の検証に取り組みました。

赤色LED電照とは？

- LED電球は、これまで花き栽培で一般的に用いられてきた自然電球よりも、省電力で長寿命であり、さらに、赤色や緑色などの単一の波長の光を発することができ、農業の生産現場でも注目されている電照資材です。
- その中でも赤色の光は、トルコギキョウにおいては夏季には開花抑制効果、冬季には開花促進効果があることが確認されています。
- その特性を活かして、生育期間が夏季にあたる秋出し栽培において、赤色LED電照処理を行うことで、切り花長の増加による品質向上と、開花抑制による早期開花防止の両方の効果が期待できます。

令和6年3月
青森県花のくにつくり推進協議会

赤色LED電照実証のパフレット

3 販売状況

(1) 出荷額

出荷額は減少傾向にあり、主力の切り花類では、平成 24 年比で 75%と減少しています。

品目別では、キク類、トルコギキョウ、アルストロメリアの順となっており、平成 29 年以降はほぼ横ばいで推移しています。

【類別出荷額】

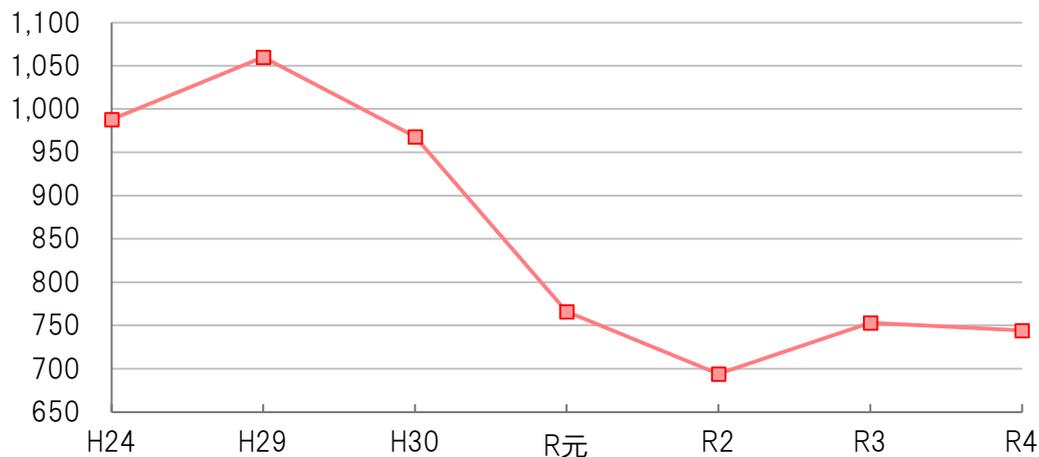
(単位：百万円)

項目	H24	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H24
切り花類	988	1060	968	766	694	753	744	75%
鉢物類	596	499	479	340	303	311	312	52%
苗物類	179	114	95	105	101	95	127	71%
花木類	119	95	75	47	1	1	2	2%
芝類	55	54	60	37	30	37	40	73%
球根類	3	1	3	10	25	25	22	733%
合計	1,939	1,823	1,680	1,306	1,153	1,221	1,247	64%

[県花き産地生産等調査]

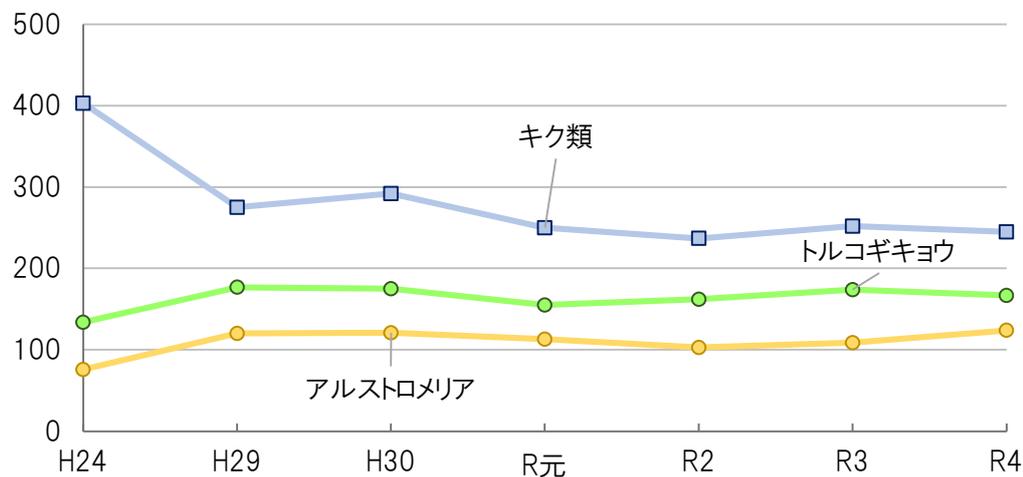
(百万円)

＜切り花類の出荷額の推移＞



(百万円)

＜切り花類の品目別出荷額の推移＞



【切り花類 品目別出荷額】

(単位：百万円)

区分	H24	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H24
キク類	403	275	292	250	237	252	245	61%
輪ギク	335	188	220	175	159	135	117	35%
デイスパッドマム	※	※	※	※	※	57	64	—
トルコギキョウ	134	177	175	155	162	174	167	125%
アルストロメリア	76	120	121	113	103	109	124	163%
カンパニュラ	18	32	26	25	17	22	28	156%
ヒマワリ	23	26	15	15	20	24	22	96%
デルフィニウム	5	7	8	7	5	3	3	60%
サクラ(枝物)	14	9	7	5	7	5	5	36%
バラ	102	108	80	53	47	48	41	40%
ユリ類	28	20	17	3	2	2	2	7%
宿根カスミソウ	19	18	14	14	16	22	11	58%

[県花き産地生産等調査、※調査データなし]



生花店で販売される花き

(2) 市場出荷状況

市場出荷については、全体の 80%以上が県外市場に出荷されており、このうち 60%以上が関東地域の市場となっています。

東京都中央卸売市場では、県産花きの取扱いが7月～10月で多くなっており、令和4年の取扱数量は203万本と平成24年から27%減少した一方で、取扱金額は2.3億円と27%増加しています。

また、単価は平成24年と比べて高くなっており、7月から10月の夏秋期では、輪ギクは80円/本、トルコギキョウは200円/本以上を維持しています。

【県産花きの市場出荷先】

(R5 金額ベースでの割合)

県内市場	17.7%	北海道	11.6%
県外市場	82.3%	東北	9.2%
		関東	68.2%
		関東以西	11.0%

[JA全農あおもり]

【東京都中央卸売市場における切り花類取扱状況】

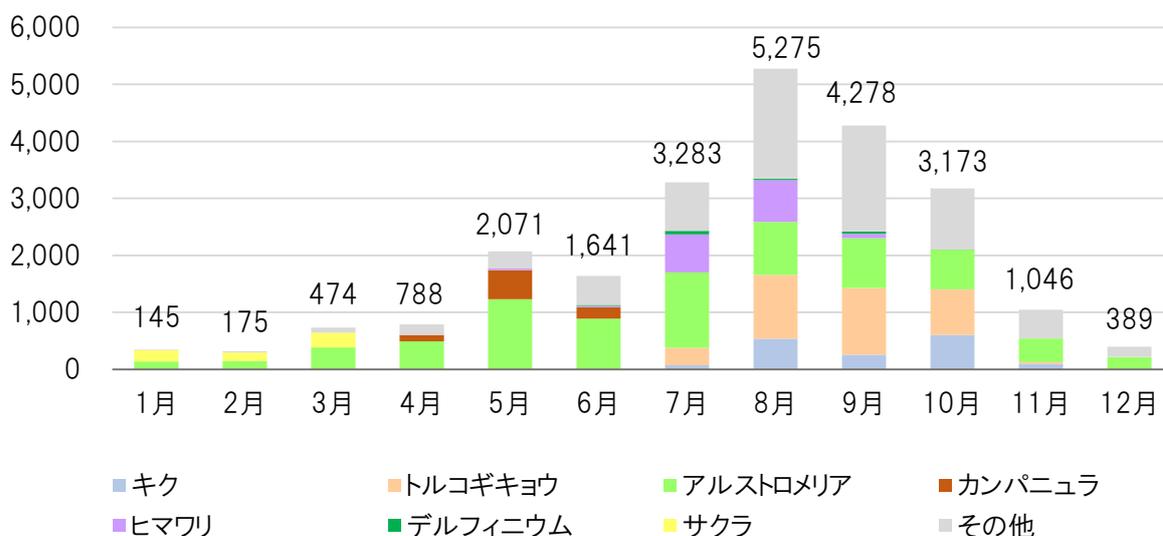
(単位：万本、百万円、円/本)

区分	平成24年			令和4年		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価
青森	278(29)	179	64	203(32)	227	112
全国	93,693	57,485	61	76,891	61,692	80

[東京都中央卸売市場 市場年報、()内は全国順位]

(万円)

＜東京都中央卸売市場における県産切り花類の月別取扱金額＞



[東京都中央卸売市場 市場年報]

【東京都中央卸売市場における県産花き月別取扱単価】

(単位：円/本)

区分	平成 24 年					
	5	6	7	8	9	10
キク類	-	-	32	72	55	43
輪ギク	-	-	33	78	57	43
トルコギキョウ	-	163	142	132	85	83
アルストロメリア	59	71	81	97	93	124
ヒマワリ	74	48	41	42	52	46
カンパニュラ	60	44	43	-	-	-
デルフィニウム	-	103	-	-	-	-

平成 24 年比 100~150%
150%以上

区分	平成 29 年						令和 4 年					
	5	6	7	8	9	10	5	6	7	8	9	10
キク類	-	34	55	72	59	61	129	135	115	95	100	94
輪ギク	-	49	52	86	70	62	-	-	87	85	83	80
トルコギキョウ	-	162	168	175	165	183	-	169	218	224	225	260
アルストロメリア	61	88	92	129	125	132	96	102	126	152	149	182
ヒマワリ	45	57	47	61	51	39	75	64	69	80	61	-
カンパニュラ	57	46	-	-	-	-	74	68	-	-	-	-
デルフィニウム	-	137	119	188	169	173	-	171	188	276	297	260

[東京都中央卸売市場 市場年報]

(3) 流通

働き方改革関連法施行により、2024 年度から時間外労働の上限規制が適用され、物流の効率化に取り組まなかった場合、令和 12 年には 9.4 億トンの輸送能力不足が懸念されています。

本県においても輸送費の高騰や週当たりの出荷回数の減少、運送時間の前倒し、関東市場への輸送期間が中 1 日となるなどの影響が見られています。



トラックへの積み込み (バラ積み)

(4) 販売対策の推進

ア 市場出荷における経営の安定化（県単野菜・花き価格安定対策事業）

生産者の経営の安定化を図るため、JAを対象として市場出荷した花きの価格が著しく低迷した場合に、県・市町村・JA全農あおもり・生産者が造成した資金から価格差補給金を交付しています。

対象品目	面積要件	要件
輪ギク・トルコギキョウ	0.4ha 以上	認定農業者を含む3戸で構成し、共同計算を実施していること

【令和6年度加入（交付予約）数量】

- 輪ギク（JAごしょつがる） 1,280 千本
- トルコギキョウ（JA津軽みらい、JAつがるにしきた） 323 千本

イ 物流 2024 年問題への対応

JA全農あおもり及び関係JAと連携し、物流の効率化を図るための実証に取り組んでいます。

【令和5年度実績】新幹線を活用した輸送試験を実施

※令和6年度は、規格統一ボールを使用したパレット輸送を実証

(5) 課題等

- ・作付面積の減少に伴い、出荷額は減少傾向である一方で、単価は堅調に推移していることから、市場ニーズを踏まえた出荷と品質の維持・向上が重要となっています。
- ・2024年問題を受け、出荷コストの上昇や輸送時間の長期化などの影響が見られており、対応が急務となっています。

○農協の意見等

- ・販売価格を確保するためには、品質向上が必要である。
- ・出荷コストの削減、輸送効率などの改善が必要である。

○県内外市場からの意見等

- ・効果的な販売を行うため、事前に生産状況などの情報を提供してほしい。
- ・新品目の導入よりも、現行品目の品質向上が重要である。
- ・2024年問題に対応するため、箱のコンパクト化や積載効率の向上、パレット輸送など輸送の効率化を図ってほしい。

4 本県花きの需要

(1) 消費動向等

令和4年の一般家庭における花きの消費動向を見ると、青森市における切り花・園芸用品等の購入金額は13,720円となっており、平成24年に比べて減少しています。

また、花育活動におけるアンケートでは、「どのような花を購入したいか」という質問に対し、「地元（青森県内）で生産した花」と答えたのは150人中で28%となっており、県産花きに対する一定の需要があることが推測されます。

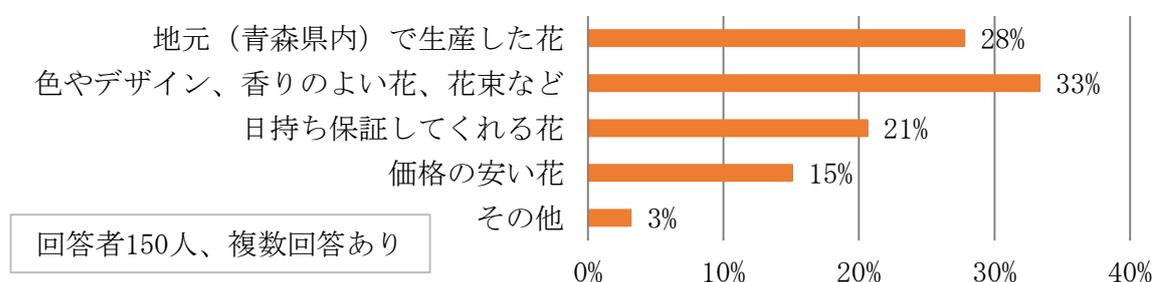
【家計消費支出における花き関係の支出額】

(単位：円/年)

区 分	平成24年		平成29年		令和4年	
	全 国	青森市	全 国	青森市	全 国	青森市
切り花・園芸用品等 (H24比)	18,480 (100)	15,389 (100)	17,220 (93)	15,808 (103)	16,977 (92)	13,720 (89)
切り花 (H24比)	9,541 (100)	9,637 (100)	8,757 (92)	10,069 (104)	7,992 (84)	8,500 (88)
園芸用品 (H24比)	8,939 (100)	5,752 (100)	8,463 (95)	5,739 (100)	8,985 (101)	5,220 (91)

[総務省家計調査(2人以上の世帯)、園芸用品には園芸用植物含む]

【花育活動後のアンケート結果】「どのような花を購入したいか」



[青森県における花育体験[取組事例集](令和6年3月)]

(2) 消費宣伝対策

ア 小売店と連携した消費宣伝活動

県内花き関係者で組織する「青森県花のくにつくり推進協議会」が主体となって、県内各地の小売店と連携し、県産花きの宣伝、販売を行う「あおもりフラワーウィーク」を開催しており、開催に当たっては、県内企業・団体等にも案内を周知しています。

【青森県花のくにつくり推進協議会の構成機関】

J A 全農あおもり、生産者団体（(一社)日本フラワーデザイナー協会青森県支部ほか）、県内花き市場、県産業技術センター、青森市・八戸市農業経営振興センター、販売業者（花キューピット青森県支部、(株)中村生花店ほか）、県

【あおもりフラワーウィーク 令和5年度実績】

実施期間 6月から10月の間で5回

小売店 26店舗、販売数 1,286点

イ 県産花きのPR活動

県産花きの品質の良さなどを消費者に直接PRするとともに、暮らしに花を取り入れた生活の普及を図るため、JA全農あおもり等と連携し「あおもりフラワーフェスティバル」を開催しています。

【あおもりフラワーフェスティバル 令和5年度実績】

7月22日～23日、青森市「アスパム」、来場者数894名
(主な内容) 共進会に出品された花の展示、県産花きのフラワーアレンジメント展示、フラワーアレンジメント教室、模擬セリ体験

ウ 花育の推進活動

青森県花のくにつくり推進協議会による活動の一環として、県内花き市場が主体となり、地元小学校の生徒等を対象にフラワーアレンジメント体験や花壇づくりなどを実施しています。

【令和5年度実績】 小学校・幼稚園など14回

(3) 課題等

- ・一般家庭における切り花の購入金額が減少している中で、県産花きの消費拡大を図るためには、県民における県産花きの認知度向上が重要となっています。

○農協の意見等

- ・地産地消を強化していきたい。
- ・ブランド力を高めていきたい。

○生花店・県内市場の意見等

- ・県産花きのPR活動を継続してほしい。
- ・高品質生産により、評価を高めてほしい。
- ・需要拡大に向けて、県外へのPRも検討してほしい。



フラワーフェスティバルでの
模擬競り



フラワーフェスティバル
ポスター

第2章 青森県花き振興方策の位置付け

1 青森県基本計画における位置付け

令和5年度からスタートした新たな県政運営の基本方針「青森県基本計画『青森新時代』への架け橋」では、本県のめざす姿の一つとして、「農林水産業が持続的に発展する社会」を掲げています。

青森県花き振興方策は、青森県基本計画のうち、農林水産分野の政策目標である「豊かさを実感できる力強い農林水産業の実現」に向けて、本県花きに係る具体的な取組内容を取りまとめたものです。

2 法律上における位置付け

「花きの振興に関する法律（平成26年法律第102号）」第4条に基づき、国が定める「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針」に即し、本県における花き産業及び花きの文化の振興に関する計画として定めたものです。

【参考：花きの振興に関する法律 抜粋】

第4条 都道府県は、基本方針に即し、当該都道府県における花き産業及び花きの文化の振興に関する計画（以下「振興計画」という。）を定めるよう努めなければならない。

2 都道府県は、振興計画を定めるに当たって花きの需給事情を把握するため必要があると認めるときは、花き団体その他の関係者に対し、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

3 都道府県は、振興計画を定め、又はこれを変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

3 計画の期間

令和10年度までとします。

第3章 本県花きの振興に向けた対策

1 生産対策

夏秋期の高品質生産を目指して、普及指導員と営農指導員が連携した指導体制の強化や生産者自身が生産から出荷までの管理状況や問題点などを把握して、改善につなげられる「生産管理チェックシート」の作成・普及に取り組んできたほか、新たな技術や品種等の導入を推進してきました。

花きの生産振興を図るためには、本県産の強みである夏秋期の生産性を更に高めていくことが重要であることから、生産対策では、県産業技術センターと連携しながら、収益性の高い新たな栽培技術の開発に取り組むとともに、生産指導の強化と生産者の技術の底上げに取り組んでいきます。

また、近年は、夏場の高温により収穫期のずれ込みや品質の低下などの影響が生じていることから、夏場の高温対策として新たな技術等の開発・実証・普及に重点的に取り組んでいきます。

(1) 夏場の高温に対応した技術の開発・実証・普及

ア 新たな高温対策技術の開発

夏場の高温による品質低下を回避するため、トルコギキョウにおける家庭用LEDを活用した開花調整など、生産者が取り組みやすい高温対策技術を開発します。

また、夏場の高温により開花時期が安定しない小ギクについて、需要が見込まれる8～9月出し栽培の作型を検討します。

イ 新たな温度上昇抑制資材の効果実証

夏場の高温による施設内温度の上昇抑制効果を検証するため、遮熱効果の高い機能性フィルムや塗布剤など、新たな資材の実証に取り組めます。

ウ 高温対策技術の普及

これまでの試験研究や現地実証により、施設内温度の上昇抑制効果が確認されている寒冷紗や遮光ネットなどの遮光・遮熱資材や、トルコギキョウにおいて早期開花を抑制する赤色LED電照処理など、高温対策技術の導入を推進します。



赤色LED電照ハウス



遮熱資材の塗布

(2) 収益性向上に向けた新たな技術等の開発

ア 収益を確保できる新たな品目等の栽培技術開発

花き生産の収益性を高めるため、省力低コスト栽培が可能な新たな品目や作型について、栽培技術の開発に取り組みます。

イ アルストロメリアの夏秋期増収技術の開発

越冬が必要なアルストロメリアについて、燃料コストを低減する温度管理方法と台刈りの組合せなどにより、従来の4～5月における採花を価格が高い6～7月に可能とする技術の開発に取り組みます。

(3) デジタルデータを活用した安定生産技術の開発

トルコギキョウの画像診断に基づく生育診断手法など、デジタルデータを活用した花きの安定生産技術の開発に取り組みます。

(4) 生産管理指導の強化

ア 「生産管理チェックシート」の活用推進

トルコギキョウについて、生産者自身が生産管理の取組状況や問題点を把握し、改善していくことができるよう、生産から出荷までの注意すべきポイントをまとめた「生産管理チェックシート」の普及拡大を図ります。

また、JA等と連携しながら、より生産者が利用しやすくなるよう、チェックシートを見直しするとともに、トルコギキョウ以外の品目について作成を検討します。

イ 生産指導体制の強化

普及指導員の指導力強化を図るため、各地域の現地診断事例等をデータベース化し情報共有できるシステムを運用するなど、デジタルツールを活用した普及指導体制の構築に取り組みます。

また、合同巡回や、講習会の企画・開催等を通じて普及指導員と営農指導員の連携を強化するとともに、健康な土づくりや環境に配慮した栽培方法の推進に加えて、病虫害防除対策の徹底や適正な施肥・かん水など、品目に応じたきめ細かな指導活動を展開します。



花き栽培講習会

(5) 生産者同士の研さんによる栽培管理技術の底上げ

品質の平準化を目指して、各JAの生産組織がそれぞれの単位ごとに目揃会を開催し、出荷規格の遵守を徹底します。

また、生産者の生産意欲や技術の向上と生産者間の交流を図るため、共進会を引き続き開催します。



青森県花の共進会

2 担い手の確保・育成対策

花きは、水稲や野菜との複合経営において重要な品目であることから、経営指標や経営事例集等の作成・活用により、花きの導入を推進してきましたが、担い手の高齢化等に伴い、花き生産者は減少が続いています。

県産花きの認知度を高め、有利販売につなげていくためには、出荷量の確保が重要であることから、担い手の確保・育成対策では、新規作付者の確保と生産者同士のつながりを生かしながら技術力の向上を図っていきます。

また、花き生産者の減少が著しいことから、新規作付者の確保に向けて、花きを導入していない生産者に対する作付誘導や施設等の導入支援に重点的に取り組んでいきます。

(1) 新規作付者の確保

ア 花き経営メリットの発信強化

花きの作付意欲を醸成するため、県内の各産地における品目及び経営実態調査を踏まえた経営指標や優良経営事例を活用したPR資料を作成するとともに、就農相談の場や県ホームページを活用しながら、花き以外の生産者や新規就農者向けに情報発信します。

イ 既存施設などを活用した作付推進

初期投資を抑えた花き導入の手法として、JA等と連携しながら、露地栽培における転作田の活用を推進するほか、水稲育苗後のパイプハウスを利用した施設栽培を推進します。

ウ 施設などの導入支援

新たなパイプハウスや省力管理機器の導入を支援するため、国や県の支援制度について、市町村や生産団体等と連携しながら周知を図るとともに、活用を推進します。

(2) 技術力の向上

ア 現地研修会の開催

生産者間の交流を促進し、生産技術を相互に高め合うことを目的に、高度な技術を持つ生産者ほ場で現地研修会等を開催します。



イ 栽培技術習得体制の構築

新規作付者を始めとした経験の浅い生産者の生産技術を高めるため、産地の花き部会などと連携し、熟練生産者を地域の相談員とするなど、技術を学ぶことができる体制を構築します。

また、県産業技術センターと連携しながら、優れた生産技術を有する熟練生産者による土壌水分や温度などの管理データを基に指標を作成し、新規作付者の早期技術習得に取り組みます。

3 流通対策

市場流通においては、販売価格の確保に向けて、各市場に対する産地情報の提供や、鮮度を維持する湿式・低温輸送を推進してきました。

切り花における輸入花きの割合が着実に増加している中で、有利販売を実現していくためには、産地と卸売市場との連携がますます重要となっていることから、産地における流通の効率化や産地と卸売市場の連携強化に向けた取組を推進していきます。

また、働き方改革関連法の改正に伴い、遠隔地市場までの輸送への影響が懸念されており、早急な対応が求められていることから、流通対策では、パレット輸送の実現に向けた取組支援に重点的に取り組んでいきます。

(1) 産地における流通の効率化に対する支援

輸送回数の減少や輸送時間の延長など市場流通への影響が生じないように、J A全農あおもりやJ A、卸売市場と連携して、パレット輸送に対応した段ボール規格や花きの出荷規格の検討を行うとともに、規格統一段ボールを活用したパレット輸送の実証試験など、効率的な流通体制の構築を目指した産地の取組を支援します。

(2) 産地と市場の連携強化

ア 卸売市場に対する生産情報の発信強化

卸売市場における有利販売を目指して、各J Aによる生産量や出荷時期など市場向けの情報発信を強化することにより、市場での販売先を確保する取組を促進します。

イ 卸売市場における買参人との連携強化

買参人を始めとした市場関係者が県産花きの品質等を事前に直接確認し、販売に生かすことができるよう、J A全農やJ Aが卸売市場にサンプル提供や展示・PRなどを行う販売促進活動を推進します。



規格統一段ボールを
活用した流通実証



関東市場で展示される県産花き

4 消費宣伝対策

県産花きの消費拡大を図るため、県内外の消費者を対象に認知度向上に向けた取組を進めてきました。

市場からは、特に夏秋期における品質に高い評価を得てきた一方で、お盆や彼岸を始めとした地元での物日需要が販売の一翼を担っています。

県産花きの消費拡大を目指し、まずは地元で高い評価を得ることが重要であることから、地元でのPR活動の推進や県民に対する消費宣伝活動、幼稚園や小学校等における花育活動を推進していきます。

また、地元での認知度向上を図っていくため、消費宣伝対策では、各産地による産地情報の発信や直売所等におけるPR活動の推進に重点的に取り組んでいきます。

(1) 各産地による地元でのPR活動の推進

地元消費者からの評価と認知度を高めるため、各産地によるメディアを活用した産地情報の発信や直売所等におけるPR活動を推進します。

(2) 青森県民に対する消費宣伝活動の実施

県産花きに対する県民の評価と認知度向上を図るため、「あおもりフラワーフェスティバル」について、開催場所や展示方法などを工夫しながら、関係団体と連携して開催し、県産花きの品質の高さをPRします。

また、県内生花店と県内市場、産地が連携して、県産花きの宣伝販売を行う「あおもりフラワーウィーク」について、協力生花店の意見等を踏まえ、消費者の関心を高める企画を取り入れながら実施し、県内における需要拡大を図ります。



あおもりフラワーフェスティバル



あおもりフラワーウィーク

2024 あおもり
フラワーウィーク

県産花きを使ったフラワーアレンジメントを販売します！

【実施期間】	第1回	6月24日(月)～	6月30日(日)
	第2回	7月29日(月)～	8月4日(日)
	第3回	8月26日(月)～	9月1日(日)
	第4回	9月23日(月)～	9月29日(日)
	第5回	10月14日(月)～	10月20日(日)

お部屋の彩りに! 生活のやすらぎに! 仏用も!

【内容】
・県内の協力販売店 23店舗(チラシ裏面に記載)

お申込み、貸付込み
お花、八甲田のみ
4,000円以上からご購入します。
、直接花屋へお申し込みください。

(3) 花育活動の推進

県民が毎日の生活に県産花きを積極的に取り入れる環境づくりを進めるため、「青森県花のくにづくり推進協議会」と連携しながら、幼稚園や小中学校等における花育活動のほか、成人や親子を対象としたフラワーアレンジメント体験を開催するなど、県産花きに触れて、県内産地の品目の特徴などを学ぶ機会を創出し、県産花きに対する理解を深めます。



幼稚園での花壇づくり



フラワーアレンジメント体験

(4) 青森県の工芸品とのタイアップによる県産花きのPR

県民に、県産花きを身近に親しんでもらうため、県内の事業者が製造した花瓶のほか、こぎん刺しや南部裂織といった伝統工芸品とタイアップして展示することにより、県産花きと青森県の工芸品が織りなす魅力を伝えていきます。



「津軽びいどろ」とコラボしたフラワーアレンジメント

第4章 本県花きの生産目標

生産者の高齢化や労働力不足が進行する中、花きの作付面積は減少傾向にありますが、生産対策、担い手対策等の各対策を講じることにより、作付面積及び出荷額の維持・向上を目指します。

なお、県内で広く栽培されているキク類とトルコギキョウに加えて、各産地で振興しているアルストロメリア、カンパニュラ、ヒマワリ、デルフィニウム、ケイオウザクラについては、生産目標を下表のとおり設定します。

【本県花きの生産の目標】

(ha、百万円)

年次 品目	令和4年		令和10年(目標)		令和10年/令和4年	
	作付面積	出荷額	作付面積	出荷額	作付面積	出荷額
キク類	14.6	245	14.6	261	100%	107%
輪ギク	7.8	117	7.8	127	100%	108%
トルコギキョウ	7.8	167	8.0	190	103%	114%
アルストロメリア	1.9	124	2.0	137	105%	110%
カンパニュラ	1.1	28	1.1	32	100%	115%
ヒマワリ	2.8	22	3.0	25	107%	117%
デルフィニウム	0.4	3.0	0.4	3.2	100%	105%
ケイオウザクラ (枝物)	6.1	5.3	6.1	5.3	100%	100%

第5章 付属資料（青森県花き振興方策策定経過）

1 青森県花き振興方策検討委員会作業部会

- ・第1回（令和6年9月9日）：県産花きの現状と課題について
青森県花き振興方策骨子案について
- ・第2回（令和6年11月22日）：青森県花き振興方策案について

<花き振興方策検討委員会作業部会構成員>

	構成機関・団体
農業団体	全国農業協同組合連合会青森県本部やさい部やさい花き課
試験研究	地方独立行政法人青森県産業技術センター農林総合研究所花き・園芸部
県	農林水産政策課農業改良普及G、各地域県民局地域農林水産部農業普及振興室、農産園芸課（事務局）

2 青森県花き振興方策検討委員会

- ・第1回（令和6年10月29日）：県産花きの現状と課題について
青森県花き振興方策骨子案について
- ・第2回（令和7年1月9日）：青森県花き振興方策作成について

<花き振興方策検討委員会構成員>

役職	構成委員
会長	農産園芸課長
委員	全国農業協同組合連合会青森県本部営農部営農技術課長 〃 やさい部やさい花き課長 つがるにしきた農業協同組合営農部営農課長 ごしょつがる農業協同組合野菜振興課長 津軽みらい農業協同組合営農購買部営農課長 八戸農業協同組合営農経済部指導課長 株式会社青森花卉代表取締役 株式会社中村生花店代表取締役 地方独立行政法人青森県産業技術センター農林総合研究所花き・園芸部長